

被爆75年・2020年NPT再検討会議&原水爆禁止世界大会in ニューヨークへのうたごえ代表団派遣方針

日本のうたごえ全国協議会は、「核兵器のない世界」の実現へ、これまでの合意の実行と核兵器禁止条約を最大の焦点として開催される2020年NPT再検討会議(4月27日～)に際し、ニューヨークで開かれる原水爆禁止世界大会をはじめとする国際共同行動に参加する代表団を派遣します。

2017年7月7日、122カ国によって採択された核兵器禁止条約は、本年9月末現在、批准32カ国、調印79カ国となっています。さらに昨秋の国連総会での軍縮審議では20カ国近い国が、すでに批准の手続きに入っていることを表明。いよいよ2020年被爆75年にむけ条約を力にしながら「核兵器のない世界」実現の夢が現実のものとして私たちの前に迫ってきています。

核保有国などの妨害に抗して核兵器廃絶にむけた前進をかちとるために、NPT再検討会議にむけ、草の根からの運動、市民社会と諸国政府の共同の力を大きく結集し、ニューヨークでの原水爆禁止世界大会をはじめ、2020年NPT再検討会議での国際共同行動を成功させるために、日本原水協代表団の行動と連携し、うたごえ独自の行動も計画しながら、平和と命を守るうたごえをアピールします。

日本原水協の代表団基本方向

- 1) 4月23日、代表団はニューヨークに全員集結する。
- 2) 4月24日、25日の「原水爆禁止世界大会inニューヨーク」、マンハッタンの行進、署名の共同提出行動をメインに、4月24日から、NPT再検討会議開会日(27日)までの4日間を行動日とする。
- 3) ニューヨーク行動や各地の訪問で、被爆証言を行い、原爆展など被爆者の活動を支援する。「ヒバクシャ国際署名」を集める。

★ニューヨーク基本コース(5泊7日)

- 4月23日(木) ニューヨーク到着 各自ホテルへ
- 24日(金)～25日(土) 原水爆禁止世界大会inニューヨーク
- 26日(日) マンハッタンパレード、署名の共同提出など
- 27日(月) NPT再検討会議開会、ニューヨーク市内観光 *27日の夜はフリー
- 28日(火) 現地出発
- 29日(水) 日本到着

- ① ニューヨーク(成田発着、JAL日本航空直行便)130名
- ② ニューヨーク(成田発着、JAL日本航空直行便)130名
- ③ ニューヨーク(羽田発着、ANA全日空直行便)100名
- ④ ニューヨーク(羽田発着、ANA全日空直行便)100名 *関空発はトランジット有、入国審査厳しい

うたごえ代表団の基本方針

- 上記、日本原水協の基本コース③または④のコースで、原水協の日本代表団に入り、行動を共にする。
 - *うたごえとして現地の人たちと共に世界大会のオープニングで歌えるよう要望していく
 - *世界大会は全員傍聴できる *24日または25日の夜にうたごえ独自のコンサート開催を検討
 - *平和フェスティバル、階層別のつどいなどの場で、街頭行動など含めて、演奏の機会がもてるか準備状況の情報を得ながら進める。(うたごえの出番をどこにつくるか?独自の演奏の場をもつか?など今後調整。)

■ 結団式を4月22日(水)に東京で行う(予定)。従って4月22日(水)～4月29日(水)を基本とする。

■ 規模 各県から1名以上の50～60人を目標とする。 *「平和の旅へ」関係で長崎から25～30名前後の可能性あり

■体制 代表団体制と全国派遣推進委員会との両建てを確立する。

代表団体制（体制については、今後充実させる）

団長：渡辺享則 副団長：三輪純永 事務局長：大井かつ江

創造責任者グループ(音楽監督)：渡辺享則、高田龍治

全国派遣推進委員会体制

委員長：田中嘉治 副委員長：舟橋幹雄/轟志保子 事務局長：竹内正彦 財政：大井かつ江

■費用 40万円前後の見込み（国際航空運賃、現地宿泊費、団共通経費、NY行動への参加分担金、燃料サーチャージ、コンサート経費等）※但し4/22の宿泊費は別途

■申込み締め切り

第一次締め切り 10月末 第2次締め切り 12月20日 最終締め切り 2020年2月末（予定）

うたごえ代表団の派遣運動づくりの概要

◎うたごえ代表団の活躍を期待する「よびかけ人」を募集 *各界の著名な方々に「よびかけ人」を依頼します。

よびかけ人案

森村誠一(作家)、池辺晋一郎(作曲家)、田中嘉治(日本のうたごえ全国協議会会長)三人の連名で「よびかけ人」を依頼する。

案)湯川れい子 普天間かおり 木津川計 浅井敬壹 中田進 なかにし礼 井上鑑 新実徳英 寺嶋陸也

古謝美佐子 池澤夏樹 古今亭菊千代 今福優 岡大介 松野迅 浅野昭利 窪島誠一郎

◎派遣運動を「Before(運動づくり)」～「Action(現地行動)」～「After(帰国後)」の三段構えで創り広げます。

(1) <Before>

①代表団の参加者募集

■50人～60人を目標とする。(各都道府県から1名以上の参加を)

派遣要綱と募集用紙(チラシ)を作成し募集を呼びかけます。

②ヒバクシャ国際署名運動を展開します。

■年次全国目標 25,000筆(うたごえ加盟人口5000人で一人が5名換算)を達成します。

☆各都道府県の会員数×5をめどに

③全国各地で平和コンサートやNPT・平和うたう会を旺盛に展開します。

■学習教材としても活用できる反核・平和歌集を作成、普及して平和のうたごえを歌い広めます。

④代表団派遣募金に取り組みます。

■代表団派遣費用とともに、3.1ピキニーデー、帰国後の平和行進、被爆75年原水爆禁止世界大会へも連動して参加派遣できる経費を見込んで取り組みを強めましょう。

⑤日本政府に核兵器禁止条約の批准を求めるうたごえアクション宣言をうた新号外として発行

■核兵器禁止条約の発効を求め、全国の運動の資金づくり、各県の派遣経費の資金等々になるよう、また、全国共通の派遣運動として取組みが目に見えるよう、うたごえ新聞の号外を出し「日本政府に核兵器禁止条約の批准を求めるうたごえアクション宣言」の名刺広告を募ります。

<取組み要領>

- 賛同費 個人1口500円・団体1口3,000円で都道府県別に氏名または団体名を掲載します(ペンネーム・匿名可)。内個人100円・団体500円は各地域の派遣カンパ費用に充当します。全国目標個人(団体は6で換算)10,000人
- 発表 うたごえ新聞 2020年4月20日号に合わせて4頁立ての号外を発行、うた新読者と賛同金協力者には都道府県単位で配布してもらう。
- 募集期間 2020年3月10日(日) 締切必着
「申込書」(別途)に必要事項記入のうえ、できるだけデータで事務局までお送りください。
- 号外の中身・賛同者名の掲載
・よびかけ人のメッセージのほか、松井広島市長、田上長崎市長のメッセージ掲載依頼

⑥上記派遣運動を盛り上げるための独自ニュースを発行します

(2)<Action>

*具体的な行動日程、企画は今後、日本原水協とつめていきます。

(3)<After>

*NPT参加者を先頭に、報告コンサートやうたう会等の開催、国民平和行進、2020年原水禁世界大会への参加を強め、平和のうたごえを響かせましょう。

*日本のうたごえ祭典inヒロシマで、活動の成果を反映させる企画を立てる。

以上